

平成二十三年五月九日提出  
質問第一六八号

ワクチン同時接種後における乳幼児の死亡事例に関する質問主意書

提出者  
馳  
浩

## ワクチン同時接種後における乳幼児の死亡事例に関する質問主意書

今年に入り、乳幼児の細菌性髄膜炎を予防するヒブワクチンや小児用肺炎球菌ワクチン等の同時接種後に乳幼児が死亡した事例が相次いで報告されたことを受け、厚生労働省は、この二種類のワクチン接種を一時的に見合わせるよう通知を出した。厚生労働省の専門家会議による検証の結果、ワクチン接種と乳幼児死亡との直接的な因果関係は認められず、安全性に特段の問題があるとは考えにくいと判断された。また、他のワクチンとの同時接種についても副作用のリスクが高まる報告はないと結論し、接種再開を決めた。

しかしながら、ワクチン接種に対し、不安を感じている保護者は多く存在する。ワクチンの副作用や安全面に関する情報開示、持病を抱える乳幼児への注意喚起など、保護者の立場に添った慎重で丁寧な対応が求められる。

右を踏まえ、次の事項について質問する。

- 一 両ワクチンが発売されてから現在に至るまで、ワクチン接種後に乳幼児が死亡した事例は全部で何件か。関連して、両ワクチンのこれまでの接種者の総数と、死亡事例との割合について示されたい。
- 二 厚生労働省や専門家が発表したように、今般の死亡事例とワクチン接種に直接的な因果関係が無いとす

れば、どのようなことが乳幼児の死亡原因として考えられるか、見解を示されたい。

三 ワクチン同時接種は、乳幼児に対してどのような負担を与え、如何なる副作用のリスクを生じさせるのか。また、同時接種と比較し、単独接種の方が副作用のリスクは低いと考えられるか、政府の見解を示されたい。

四 持病を抱える乳幼児への影響について、両ワクチンの接種により、どのような副作用・リスクが生じると考えられるか、見解を示されたい。

五 諸外国での、両ワクチン接種後における、乳幼児の死亡事例や、副作用について如何なる報告がなされているか、示されたい。

六 厚生労働省や専門家により、両ワクチンの安全性に関する一定の見解が示されたが、接種に関する保護者の不安が完全に解消されたとは言えない。行政や医師から、ワクチンに関する適切な情報公開、丁寧な説明を行うことを徹底させ、ワクチンの正しい知識を身に付け、安心して子育てが出来る環境をつくることが重要だと考えられるが、政府の見解は如何。

右質問する。